

令和元年度 神戸鈴蘭台高等学校学校評価
(自己評価)

※ A=4.0～3.25 B=3.25～2.5 C=2.5～1.75 D=1.75～1.0

評価観点	No.	評価項目	評価	自己評価、今後の方策
開かれた学校づくり	1	学年通信、保健だより、図書館だより等を定期的に発行し、情報を発信することができた。	A	概ね定期発行し情報発信ができていた。今後も継続するとともに充実させる。
	2	ホームページ等を適切な時期に更新し、広く情報を発信することができた。	B	ホームページ担当の充実、内容の改善を図る。
	3	行事や部活動等を通して、地域社会や地域の中学校等と積極的に交流し、連携を取ることができた。	A	コースの行事等で地域の中学生との交流ができた。また、文化部の活動で地域との交流事業、ドイツ高校生との交流があった。引き続き地域社会との交流を進めて充実を図る。
	4	進路、生徒指導、教育相談等、学校の諸課題について校内研修が計画的にできた。	B	教育相談、研修の継続と充実を図る。 授業公開、研究授業、授業アンケートの結果など授業改善に取り組んできた。今後も継続して実施し、生徒の状況や進路に合わせた指導方法の研究を継続していく。 いじめに関してはアンケートの結果報告は行ったが、今後計画的な研修も考える必要がある。 新入試に関してあまりにも不確定要素が多かったため、計画的研修どころではなかったし、行っていたとしても混乱を招くだけであった。まだ、不確定な要素が残っているため、もう少し様子を見る必要がある。
学力の定着及び進路保障	5	3年間を見据えて進路指導に関する年間計画を作成し、組織的、継続的に進路指導が実施できた。	B	様々な意見があり、明確な方針自体が打ち出しにくい状態であった、しかし指定校推薦募集を1度にする、GTECを1・2年継続受験することが今年度確立された。これをきっかけに方針が整うようにする必要がある。
	6	アンケートや面談等を通して、生徒の希望や意識を把握し、その内容を進路指導に反映させることができた。	B	生徒、保護者の進路意識を確認しながら進めているが、まだ進路希望が定まらない生徒も多い。 進路アンケート実施し生徒の進路状況を把握。さらに進路指導部と連携しながら進路指導を充実させたい。 担任を中心に個別に面談等を頻繁に行い、生徒の実態や希望に合わせた進路指導を実施することができた。
	7	進路ガイダンスや進路ホームルーム等の実施を通じて、生徒が具体的な進路目標を持つように指導できた。	B	今年度は資料配布会、看護・医療ガイダンスの機会を追加した。来年度から兵庫県版「キャリアノート」または文科省版「キャリア・パスポート」の実施義務化により、生徒が将来の生き方を考えられるようにしていく。
	8	学力の定着を図るために、予習・復習などの学習習慣を身につけさせることができた。	B	学習習慣の定着を早い段階で進めて行く必要がある。そのために時間の使い方の指導や授業の理解度をはかる取り組み、そして進学に対する意識付けも必要である。
	9	小テストや課題などを活用し、授業の取り組みへの意識を高めさせることができた。	B	学力の定着をはかる取り組みにつながり、各教科で工夫されてきている。さらに工夫して、より生徒の理解度が上がるようにしていく必要がある。
	10	習熟度別授業や少人数授業では、個に応じた指導を効果的に行うことができた。	B	該当教科では、少人数を活かし概ね良好な指導ができています。少人数の利点を更に活用できるよう授業を工夫する。
	11	授業・補習・小テストなどを通して、生徒の実情に合わせた学習指導ができた。	B	学習習慣の定着に向け、小テストを実施。意欲の差がでてくる。学習意欲の低い生徒への対応を工夫する必要がある。 生徒の理解度によって放課後、補習授業を実施。今後進路に合わせて補習の実施を考えている。 多くの先生方の協力のもと、計画的に補習を実施し、入試に備えることができた。
	12	「総合的な学習の時間」を計画的に実施することができた。	A	各学年で統一したテーマに基づき実施された。運営面でも組織的に取り組めた。成果を上げた取り組みなので今後も探究の内容を考え取り組んでいく。
	13	生徒が理解しやすい授業を工夫することができた。	B	授業公開や研究授業の含め、授業改善を考慮しながら、各教科担当を中心に細やかに対応できた。今後も教師間で研鑽を積みながら、工夫した授業を研究実践していく。また、新しい大学入試に対応した内容も対応していく必要がある。

令和元年度 神戸鈴蘭台高等学校学校評価
(自己評価)

※ A=4.0～3.25 B=3.25～2.5 C=2.5～1.75 D=1.75～1.0

評価観点	No.	評価項目	評価	自己評価、今後の方策
人間性豊かな生徒の育成	14	服装・頭髪等、望ましい身だしなみを身につけさせることができた。	B	服装頭髪検査や日常の指導の成果は表れていると思われるので、今後も継続して指導を行っていきたい。
	15	挨拶や遅刻指導等を通じて、基本的な生活習慣やマナーを身につけさせることができた。	B	本的な生活習慣は全体的にはよくできている。スマホの校内使用マナーについては引き続き指導が必要である。 職員室への入退出や授業時の挨拶の励行に心がけた。 基本的な生活習慣については、概ね良好である。
	16	清掃・美化活動への意識を高めることができた。	B	清掃当番により、概ね取組んでいる。一部十分でない箇所もあり、引き続き充実を図っていく。
	17	生徒会・部活動等への積極的な参加を促す工夫ができた。	B	部活動入部率も高く、生徒は積極的に参加していると思われる。現状を維持できるように努力することが必要である。
	18	生徒会行事について、生徒の自主的活動の推進を図り、生徒の主體的な企画・運営による行事を活性化させることができた。	B	文化祭、体育祭等、一定の成果は表れていると思われるので、さらに生徒の自主性を伸ばしていきたい。
	19	学校行事・ホームルーム活動などを通じて、生徒に協調性や社会性・計画性を身につけさせることができた。	B	事に参加することで、協調性をもって自分の役割を自覚し、行動できる生徒も多い。さらに2学年に向けて、全体が高い意識を持てるようにしていきたい。 文化祭・体育祭・修学旅行などの学校行事を通して自主性を養うことができた。文化祭での演劇活動などでさらに自主性を養いたい。 3年間の集大成として、文化祭・体育祭で最高学年としてのふさわしい姿を見せることができた。
	20	学校の実情に応じた防災避難訓練の計画・実施ができた。	B	地震対応非難訓練を実施した。南海トラフ・地震等様々な災害状況に応じた訓練の実施とマニュアルの点検が必要である。
	21	人権ホームルームの充実を図り、計画的に実施することができた。	B	県人権啓発協会作成のビデオを教材として、全HRで討論を行った。より活発な意見交換が行えるよう、HRの展開の方法等について工夫を重ねる必要がある。
	22	人権に関し、充実した教育研修会を実施することができた。	B	外部講師を招き、いじめ防止のためのコミュニケーション能力育成をテーマに研修を行い、人権に対する新しい認識を持つことができた。本校の置かれた状況に即した研修が継続できるよう、十分に検討を重ねて研修テーマの選定などを行っていきたい。
	23	キャンパスカウンセラーなどによる研修を実施し、生徒指導等の在り方について教職員の共通理解を図ることができた。	B	担任及びキャンパスカウンセラーにより適切に実施できた。引き続き実施していく。
特色校化の	24	生徒の悩みの相談に応じて適宜個人面談などを行い、生徒の内面理解に努めた。	B	担任団をはじめ、関係のある先生方が気にかかる生徒に対し、丁寧の対応していた。今後も生徒の様子を注意深く見ていき、個に応じた対応をしていきたい。 本人や保護者の相談に対してカウンセラーと連携し解決につとめるようにした。さらに日頃より生徒との関係を密にし相談しやすい環境をつくることを目指す。 キャンパスカウンセラーとも連携し、気になる生徒については個別に対応できた。
	25	いじめのない学校作りに向け、アンケート調査等により早期発見に努めるとともに、未然防止や早期対応に向けて組織的に取り組むことができた。	B	大きな問題はなかったが、いじめアンケートを活用して、各学年とさらに密な連携を取り合っていじめのない学校づくりに向けて努力していく必要がある。
働き方改革	26	国際コミュニケーションコースの特色ある教育活動を実施することができた。	B	コース体験入学やJICA交流、英語集中講座とコースの特色ある行事を、内容を精選したうえで、重点的に取り組む個所を考慮する必要がある。コースの生徒をどのように育てていくかを検討する必要がある。
	27	勤務時間の適正化に向け、定時退勤やノー部活デー・ノー会議デー等に前向きに取り組むことができた。	C	従事時間の把握等、タイムマネジメントを自己に課し、自己管理能力の向上を図る。 「いきいき運動部活動」（県教委）に従い、休養日を1週あたり平日1日、休日1日設定のうえ、活動時間も平日2時間、休日4時間で効率的な活動を行う。